

～良い対応と不十分な対応の違いとは～

近年、給食においても「個別的な相談指導」を求められる背景もあり、保護者から子どもの給食についての要望が多くなっています。今回は対応のポイントとよくある要望と対応の例についてお伝えします。

大切なポイント

① なぜその要望が出ているのか背景を捉える



例えば「量を減らして欲しい」という要望があった場合、なぜそのような要望が出ているのかを考えたり、聞いてみたりするようにしましょう。ここで「給食を完食しなければいけないことがプレッシャーになっている」という背景が見えてきたら「減らせばOK」ではなく、完食へのプレッシャーを取り除くことが優先的な対応になります。

② 保育園で出来ること/家庭で出来ることを分けてお伝えする



園や学校の方針にもよりますが、多すぎる要望に対しては、給食における指導の限界があるはずです。そういった場合には「ここまでは保育園で出来るが、ここからは家庭で必要なこと」と分けてお伝えすることが大切です。

よくある要望の例と対応のヒント

「偏食で決まったものしか食べません」

偏食の子に対しては「まずはおいを嗅ぐところからでもOK」とされています。においを嗅ぐのも感覚的に拒否する場合がありますので、スモールステップで勧めていきましょう。

「小食で完食するのが難しいです」

「完食しなければいけない」ということがプレッシャーになると、さらに食欲が低下することがあります。その子にとって負担にならない量を配膳するなどの工夫をしましょう。

「もっと食べさせてほしい」

園（や学校）の方針や今行っている工夫をお伝えしましょう。それに併せてご家庭で出来ることもお伝えできると尚良いです。（きゅうけんの過去資料を保護者にお渡しするのもヒントになります!）

「給食では食べるのに家では食べません」

家庭での習慣などに食べない原因があることがあります。その可能性を示唆してあげるのも良いかもしれません。
※右下QRコードから解説記事も参照

詳しい解説記事はこちら!

